

どがどが心 木田市です!!



Contents

- 2-3P 地域を支える若者グループ 『朝和会Jr.』
- 4-5P 『働く。地元志向』 山下聡美さん、大隈秀征さん
無料職業紹介はじめました!
- 6-7P ふるさと大田のキラリと輝く推奨店
- 8P 定住推進員だより Vol. 3
- 9P シリーズ新石見銀山⑭ / ちゃんぼし語録⑧
- 10-11P おおだ情報BOX / 全国水源の里シンポジウム
- 12P ふるさとは今 (稲用城跡) / 表紙紹介 (仁万駅周辺)

大田市ふるさと情報誌

VOL.14
2010.2

地域を支える若者グループ

「朝和会 Jr.」

朝山町

大田市内では町単位、職業単位、自治会単位などで「若いもん会」が活動しています。
今回は、朝山町の若者で組織する「朝和会 Jr.」(ちょうどわかいじゅにあ)を紹介します。会長の杉谷達郎さん(39)をはじめ、会員の方に話を伺いました。

名前の由来

以前は、我々の親の世代(現在60歳代から70歳代)を中心とした組織「朝和会」が活動していました。青年団活動の傍ら、盆踊りの手伝いや、町の行事に参加するなどしていました。

昭和60年頃には次第に活動がなくなり、それと同時に盆踊りも休止状態。その後、平成元年頃に「何か賑わいを」ということで、「納涼フェスティバル」を盆に開催し、昼間はマラソン大会、夜はカラオケなどで大変盛り上がりました。しかし、これも10年ぐら

いで途絶えてしまい、当時の公民館主事から「若い人何かやってみたら」と声がかかったのは平成14年のことでした。

その時、新たな名称を付けようということになり、朝和会の子の世代が中心だったことから「朝和会 Jr.」となりました。現在、メンバーは30〜40歳代を中心に20人が活動しています。

主な活動

会の理念は「朝山の子どもたちに、良き思い出作りを」としています。必然的に子どもを中心とした活動

になっています。

春には子ども会と一緒にバーベキュー、夏休みには「ナイトフェスティバル」を行い、みんなでカレーを食べた後、映画を見て、肝だめしをします。親子共々いい交流の場となっています。その他には盆踊りの運営や文化祭の手伝いをしています。(今年の文化祭では、たこ焼きの販売をしました。)

また、会長は朝山まちづくりセンターの運営委員で、朝山町のまちづくりについての協議に参加しています。

活動を通じて感じること

メンバーは、それぞれ仕事をもちながら活動しているのですが、全員が揃うことはなかなか難しいです。しかし、メンバーそれぞれが置かれた立場で、できることを少しずつでも協力してくれるので、活動が成り立っ



文化祭でのたこ焼き販売



ナイトフェスティバルの準備



バルーンアートに挑戦

上手にできたよ!!

ています。同じ町に住む年齢が近い者同士で、気心も知れた間柄なので、自然と協力関係ができてくるのだと思います。

今後の取り組み

会員数をとにかく増やしたいです。20歳代が一人もいないので、若い方に参加して欲しいです。

朝山の未来

今は盆踊りの時に「仏教盆踊り」を踊っていますが、もうひとつの踊り「小源口説き」があります。しかし、この踊りを知っている人が少なく、このままだと絶えてしまうのではないかと危機感を持っています。この踊りを保存し、継承していく取り組みをしたいと思っています。

朝山に定住しませんか

朝山はスロースライフを送るには絶好の場所だと思います。特に海釣りが好きな方にお勧めです。島津屋、山谷といった釣り場には、「クロ」(標準和名メジナ)を狙う絶好のポイントがあります。のんびりとした里山で農業をしながら、釣りを楽しむ生活をするなら最高の場所です。

また、人との繋がりは田舎暮らしならではのです。我々と共に地域の活動をしてみませんか。

メンバーの中にもUターン者がいますが、田舎暮らしを満喫し、充実した子育てをしています。ぜひ、朝山町と一緒に暮らしましょう。



前列左から 別所崇則(べっしょ たかのり)さん(40) 杉谷達郎(すぎたに たつお)さん(39) 杉谷圭司(すぎたに けいじ)さん(40) 後列左から 森山幸太(もりやま こうた)さん(33) さくらちゃん(3)



大隈秀征（おおくまひでゆき）さん／平成2年10月生まれ（19歳）／大田市久利町出身／両親、祖母との4人暮らし（兄2人は市外へ転出）／島根中央マルキ株式会社勤務（LPガス、高圧ガスを中心に関連機器の販売等）

働く。

平成21年4月、県立邇摩高等学校を卒業した2人。若者のそんな2人にインタビューしてみました。

こちらからは特に用事はなかったのですが、お客さん宅に立ち寄った際に「用

楽しかったことは？

周りの人から「都会は遊ぶところ」と聞いていたので、都会で就職して暮らすということに魅力を感じていませんでした。

都会への憧れはなかった？

高校に入学したときから、卒業後は就職すると決めていましたが、大田に残ると決めたのは3年生の時。何か地元役に立ちたいと考えていました。

大田で就職した理由は？

高校に入学したときから、卒業後は就職すると決めていましたが、大田に残ると決めたのは3年生の時。何か地元役に立ちたいと考えていました。

仕事は？

9月から営業担当の地区（久利・大屋）を任されています。それまでは上司の手伝いをしていました。

地元志向

多くが都会へと旅立っていくなか、地元での就職を選択。



山下聡美（やましたさとみ）さん／平成2年6月生まれ（19歳）／大田市三瓶町野城出身／両親、祖母、妹（高2、小5）、弟（中2）の7人暮らし／社会福祉法人仁摩福祉会「特別養護老人ホームしおさい」勤務

介護職に就いたきっかけは？

幼い頃からお爺さん、お婆さん子で、お年寄りの役に立つことをしたいと思っていました。また、母が高齢者介護の仕事をしている影響もあると思います。介護の道に進もうと、邇摩高校に進学し、介護のコースを選択しました。

大田で就職した理由は？

福祉専門学校への進学も考えましたが、頭で学ぶより、身体で学ぶ方が自分に合っていると思い、地元就職を決めました。何よりも慣れ親しんだ大田で、家族や友人に囲まれ、希望していた介護の仕事ができることが一番の理由です。

就職して8ヶ月が経過しましたが？

高校時代の実習とは違い、今は一人ひとりの利用者に深く関わります。当初は戸惑いもありましたが、職場のみなさんのご指導・ご支援のおかげで、今ではそのことが『やりがい』と感じるようになりました。心を閉ざしていたお年寄りが、徐々に心を開いてくれるようになったときはとても嬉しく思います。

若者の多くは都会へ旅立ちますが？

学生は、自由な時間が多くありますが、自分はまとまった休みも取れないため、うらやましく思うこともありました。しかし、『やりがい』のある仕事をしたい、自らの生活費は自分で稼いで、自立した生活をしていると思うと今の暮らしに十分に満足しています。

休みの日は何をしていますか？

友人とおしゃべりをしたり、買い物に行くのが楽しみです。大田では、ファミレスやカラオケBOXで過ごすことが多く、出雲にも買物・食事・映画鑑賞などに出かけます。特に、24時間自由集うことができるファミレスはなくてはならない場になっています。

大田について思うことは？

大田は今のままがいいです。無理に都会化しなくても、慣れ親しんだこの街が過ごしやすい。大田に望むことは、バスの便が悪いので弟（大田一中在学中）の通学送迎を家族の交替で行っています。公共交通の便が良くなること非常に助かります。

取材後記

大田市の若者の都会志向が根強いなかで、自分のやりたいことを真摯にみつめ、着実に将来に向けて歩みを進めている山下さんの生きる姿勢に好印象を持ちました。大田の街で集う場が必要不可欠の話を聞きながら、都会とは違った大田流の交流の場を多様に創出する必要性を強く感じました。そして、「大田っていい街だよな」と改めて実感できたことが大きな収穫となりました。

入社して8ヶ月が経過しましたが？

会社の先輩に恵まれたと実感しています。自分が困っている時にお客さんのところに一緒にいってきいてくれたり、わからないことは、詳しく教えてくれます。先輩から教えていただいた『常にお客さんのことを第一に考えて行動する』という言葉を肝に銘じています。自分も早く先輩のようにお客さんから信頼され、喜ばれるような社員にならなければと思っています。

大田について思うことは？

まず人柄が良いと感じます。海が綺麗で三瓶山など自然が豊かなところも魅力だと思います。都会に出た若い人達が大田に戻って、就職し、もっと活気のある街になっていくことを望みます。

取材後記

第一印象は純朴な青年。大田の良いところは？の質問では、すかさず「人柄」と答えるあたり、本当に「大田の人」が好きなんだなあと感じさせ、地元の役に立ちたいという言葉もストリートに伝わってきます。彼なら久利・大屋の人達だけでなく、大田市全域の皆さんの喜ぶ顔を演出できるのではないかと思わせる人柄でした。取材後も第一印象に変化はありません。このような若い人達の雇用創出を創出していかねばと改めて強く感じました。

はじめました！

大田市では、このほど市内の事業所や農家等の求人活動等を応援するとともに、UIターン希望者等の地元就職を促し、「地域密着型」の就労・定住支援を行うため、職業安定法に基づく大田市無料職業紹介所を開設しました。

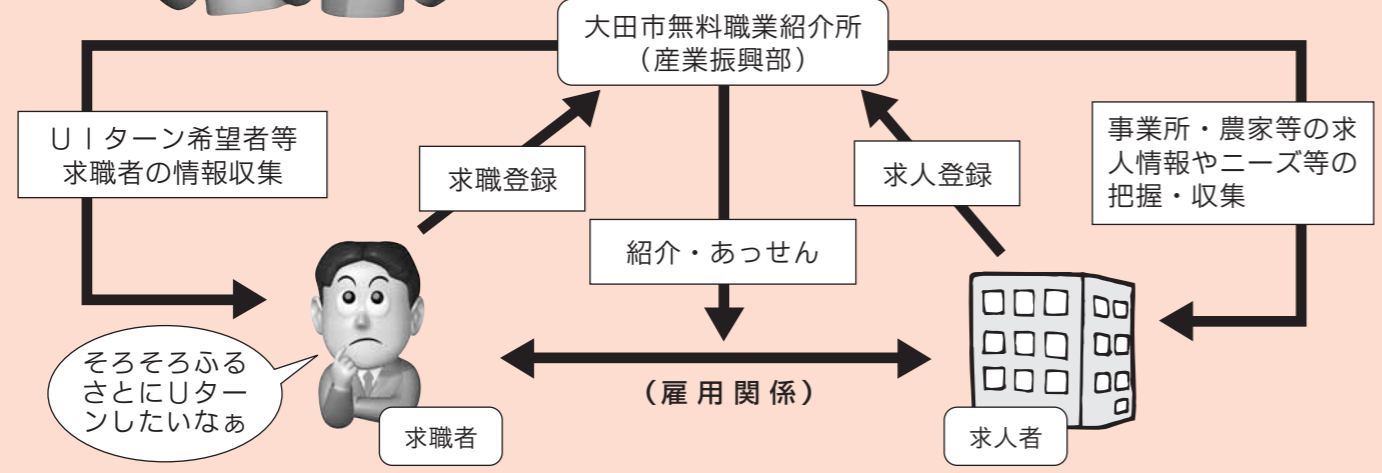
紹介所では、市内事業所や農家等の求人情報を発掘するとともに、大田市で就職を希望するUIターン希望者等との求人・求職のマッチングを図ることを目的としています。

また、市では『おおだ定住支援センター』を設け、暮らしや住まいについての情報提供も行ってまいりますので、お気軽にご相談ください。

- ★業務内容
 - ・求人情報の収集
 - ・UIターン希望者等求職者への求人情報の提供
 - ・雇用関係の円滑な成立のための紹介・あっせん
- ★「求職」の申込み方法
 - 求職を希望される場合は、あらかじめ紹介所への登録が必要となります。所定の求職票に必要事項を記入の上、郵送、メール、FAXで産業振興部までお送りください。
 - なお、事業所等へ紹介・あっせんする際、求職者の皆さんには、事前に紹介所にお出かけいただくことが必要となります。
- ★場所・開設日等
 - 場所
 - 市役所2階産業振興部
 - 開設日
 - 毎週月～金曜日
 - （祝日及び年末年始を除く）
 - 時間
 - 午前8時30分～
 - 午後5時
- 【問い合わせ】
 - 大田市役所産業振興部 商工振興担当
 - ☎0854-82-1600
 - (内線231)

無料職業紹介

あなたの就職を応援します!!



「こだわり」と「誇り」を持ちながら歩み続ける
地域に愛され、地域を支えてきた
4事業者を表彰

大田市では、このほど長年にわたって地域経済を支えてこられた4店の事業者のみなさんを、「悠々おおだふるさとの店 キラリと輝く推奨店」として表彰しました。

表彰を受けた有馬光栄堂の有馬善和さんは、「手づくりの味をこれからも守り続けたい」と推奨店としてのこだわりを語りました。同じくのがわや旅館の河原直泰さんは、「地域の方から声をいただいた。心を癒す空間をこれからもつくり続けたい」と喜びと意気込みを語りました。



この表彰制度は、長年地域に愛され、地域に根ざした地道な商業活動を続けてこられた事業者の方を表彰し、商店街並びに地域全体の活性化を図っていくことと創設したもので、今回が2回目の表彰となります。

ふるさとの店認証ステッカー

市では、今後も表彰を続けるとともに、市民をはじめ本市を訪れる観光客に対し、表彰したお店を積極的にPRしていく中で、商業振興や観光振興につなげていきたいと考えています。帰省された際には、是非表彰を受けたお店に立ち寄ってみてはいかがでしょうかでしょう。

うか。それぞれのお店のこだわりや、温かさを感じ、ふるさとの懐かしさに触れる中で、きっと心が癒されていくことでしょう。

【問い合わせ】
大田市役所産業振興部
商工振興担当
☎0854-82-1600
(内線 231)



前列左から：一宮酒造(株)の安部 栄さん、のがわや旅館の河原直泰さん、竹腰創一大田市長、有馬光栄堂の有馬善和さん、松村鮮魚店の松村洋則さん
後列左から：銀の道商工会塩谷裕志副会長、大田商工会議所西山眞治事務局長、大田市産業振興部和田部長、同森山次長

ふるさと大田のキラリと輝く推奨店

松村鮮魚店



- 代表：松村 キヨさん
- 住所：大田市仁摩町仁万1506
- 電話：0854-88-2601 (FAX兼用)
- 営業時間等：仕出しは要予約 (第2・4土曜、1/1~1/4、8/14~8/16休み)
- 沿革：昭和47年創業
- お店の紹介：地元で水揚げされた魚や農家から仕入れた新鮮野菜を使った料理を提供し、地産地消を実践。お客さんに満足していただける商品づくりにこだわり、地域から愛されている
- お薦めメニュー：☆お弁当【500~5,000円】
☆オードブル【価格相談】 ほか



一宮酒造有限会社



- 代表：浅野 浩司さん
- 住所：大田市大田町大田ハ271-2
- 電話：0854-82-0057 ■FAX：0854-82-9085
- 営業時間等：8:30~19:00(日曜、祝日、土曜不定期休み)
- 沿革：明治29年創業
- お店の紹介：三瓶山麓から湧き出る清冽な水や地元の酒米にこだわった酒造りに取り組み、石見銀山を訪れる観光客等に喜ばれている。バラや芋など地元特産品を活かした人気商品も開発
- お薦め商品：☆純米吟醸石見銀山【1,680円/720ml】
☆バラ酒「薔薇姫」(バラのリキュール)【1,750円/375ml】
☆いも焼酎「いも代官」【1,500円/720ml】 ほか



のがわや旅館



- 代表：河原 直泰さん
- 住所：大田市温泉津町温泉津口30
- 電話：0855-65-2811 ■FAX：0855-65-3550
- 休日：不定休
- 沿革：大正元年創業
- お店の紹介：創業以来、地魚や地酒を提供するなど常に顧客の満足度を優先したサービスにこだわっている。その細やかなサービスからは懐かしさや温かさを感じられ、心が和む。温泉津温泉を代表する旅館として、県内外のファンから親しまれている
- お薦めメニュー：☆平日【10,650円~】
☆休前日【12,750円~】
ともに1泊2食温泉付き



有馬光栄堂



- 代表：有馬 善和さん
- 住所：大田市大森町ハ141
- 電話：0854-89-0629 (FAX兼用)
- 営業時間等：9:00~17:00 (年中無休)
- 沿革：江戸時代末期に大森町で創業
- お店の紹介：石見銀山遺跡のある大森町で長く暖簾を守り続ける和菓子の老舗。親から子へ子から孫へ受け継がれた製造法を守り続け、懐かしい味のお菓子が味わえるのは、大森の店舗だけ
- お薦め商品：☆げたのは【525円】
☆銀山あめ【315円】 ほか



定住推進員だより Vol.3

大田市では、都市で開催されるUIターン向けイベントに出展し、ふるさと“おおだ”へのUIターンに関する情報提供や相談会を行っています。

今回は、大阪と東京で開催された定住相談会の様子をお伝えします。

ふるさと回帰フェア2009 in大阪

主催者：NPO法人ふるさと回帰支援センター

日時：平成21年9月12日(土)
場所：梅田スカイビル アウラホール
来訪者数：5,200人(主催者発表)

当日は、あいにくの雨模様。客足を心配しましたが、そこはやはり大阪です。会場には途切れることなく来場者がありました。

大田市への相談コーナーには7組の相談があり、空き家情報や定住ガイドブック、観光情報の提供、具体的なUIターンの相談を受けました。

このフェアには2008年より参加しており、今年で2回目の参加となりました。



石見定住フェア in東京

主催者：江津移住・交流促進協議会

日時：平成21年11月22日(日)
場所：東京都大手町サンケイプラザ3F
来訪者数：350人(主催者発表)

この石見定住フェアは、島根県石見地方の4市4町の自治体が共同で観光宣伝と定住相談を兼ねた形で今年初めて開催されました。

オープニングには、石見地方の郷土芸能「石見神楽」の「大蛇」を勇壮に上演。詰め掛けた多くの来場者を魅了しました。

各市町のブースでは観光宣伝や定住相談が行われ、大田市へは6組の相談を受けました。



このような定住相談会は、都市住民の方の多様なニーズを把握する貴重な機会でもあります。今後も多くの機会に出展し、ふるさと“おおだ”の自然や歴史などの魅力をPRし、多くのUIターンを希望される方々へ生の声を伝えていきたいと考えています。

【問い合わせ】おおだ定住支援センター <大田市役所地域政策課内> ☎0854-82-1600 (内線211)

先日、「『こもんじょ』を読んでみよう～古文書から知る石見銀山」という講座で、初体験となる古文書「読み下し」の初級コースに参加しました。(写真)

「まず全体をながめて、読めるところから読んでみましょう！」とのあたたかい講師の言葉に勇気を得て挑戦開始。崩し字や変体仮名に首や頭をひねりながら格闘し、あっという間の2時間でした。

「読めそうな文字を探すこと、たとえば、テニオハの小さな字や、記号、数字や地名、匁など重さ・両や文など金額をあらわした度量衡の単位から、およその内容をつかむことができようになります」「古文書を見るコツは人によって千差万別です。いろいろな角度でながめることを通して、異質であったり読解不能の文字のかたちが少しずつ読めてくるでしょう」とアドバイスをいただきました。

また、参加者からは「文脈をより豊かに味わうために、歴史的背景などの説明も受けたい。現地を訪れる際に楽しみが増えます」との声もありました。古文書をパズル感覚で読み解く楽しみ、深く味わう楽しみ、末永く古文書に触れあっていく良いきっかけとなったと思います。

さて、世界遺産石見銀山遺跡を良好なかたちで未来へ引き継ぐ前提として、今に生きるわたしたちが、歴史を知り、人権確立にむけて学ぶことが

大切です。それを助けてくれるもののひとつが、祖先から伝世した歴史資料です。

しかし、現状では、管理者の不在や死蔵化などにより、不用なものとして消滅や散逸の危機に直面している歴史資料が少なくないと考えています。これらのものを、わたしたちと次世代の貴重な財産として、記録・保存し活用につなげなければなりません。

石見銀山世界遺産センターでは、さまざま体験学習や講座の開催と並行して、石見銀山に関する歴史資料やその情報を全国的に収集しています。皆さまからの情報提供をお願いします。



昨年12月23日(水・祝)開催。初級コースは20名参加

【問】 石見銀山世界遺産センター・資料収集担当
☎ 0854-89-0183 E-mail o-igwhc@iwamigin.jp
ホームページ <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

ちゃんぽし語録⑧

お彼岸の日、昼食時の会話です。(A)孫、(B)祖母

A: 友達と中日つあんに行くけえ、お小遣いござん?
B: そらええが、無駄遣いすうだないで。

そいだが子どもほどこで行っていいだあ?

A: 高学年になったら行ってもいいだに。

B: そがだかな。ほんでも、行くなら、もほっと食べて行かにはあ、腹がすくでな。

A: そがに食べたら、中日つあんでなんも食べれんようになるけえ、もういいに。

B: 食べてもらわには、ほたもちがあまってあばきがつかんが。

A: 赤やら白やら、そがにようけ作るけえだが。

B: やあれの、はしまんやら夕飯もほたもち食べるだか……。なんとことだかいな! こがあのようけ作らないかったわ!

(解説)

彼岸市「中日つあん」は400年来続く大田の風物詩。駅通りに露店が多く並び、たくさんの人でにぎわっています。これを楽しみにしているのが子どもたち。特に小学校の高学年以上になると子どもだけで行けるとあって、毎回心待ちにしています。

おなじく彼岸の日に作るぼたもち(おはぎ)。家庭によって塩あんや粒あん、きなこなど様々あり、こちらも楽しみです。ところが子どもたちには評判がいまいちで、何食もぼたもちばかり食べる羽目になることも。最近は買って済ます家も多いでしょうが、おふくろの味として大事にしたいものです。

【対訳】

A: 友達と彼岸市に行くからお小遣いちょうだい?

B: それはいいけど無駄使いをするんじゃないよ。けど子どもだけで行っても良いの?

A: 高学年になったら行っても良いんだよ。

B: そうかい。けど、行くのなら、もうちょっと食べていかないと、お腹が減るよ。

A: そんなに食べたら、彼岸市でなんも食べられなくなるから、もういいよ。

B: 食べてもらわないと、ほたもちがあまって仕方ないじゃないの。

A: 赤(小豆あん)のや白(きなこ)のなど、そんなに多く作るからだよ。

B: やれやれ、おやつや夕飯にもほたもちを食べようか……。なんてことでしょう! こんなに多く作らなければ良かったわ!

みんな！ 待っとなるでな～

オキナグサ観察会

期日 4月29日(木)
 定員 30人 ※要予約(1ヶ月前～)
 料金 大人100円、小中高生50円
 三瓶山北の原で春風に揺れるオキナグサを観察します。三瓶の草原や林をのびり歩く、気軽な自然観察会です。
 [問] 島根県立三瓶自然館サヒメル
 ☎ 0854-86-0500
<http://nature-sanbe.jp/sahimel/>



埋没林フェスティバル



期日 5月2日(日)
 時間 10:00～15:00
 場所 三瓶小豆原埋没林公園
 料金 入場料(大人300円、小中高生100円)
 神秘的な空間、4千年前の地底の巨木林で神楽を上演します。
 [問] 三瓶小豆原埋没林公園
 ☎ 0854-86-9500
<http://nature-sanbe.jp/azukihara/>

たかのじ 高野寺・つつじ祭り

期日 5月5日(水)
 場所 高野寺(温泉津町井田)
 約1,000本のつつじが咲き誇り、来訪者の目を楽しませてくれます。
 [問] 高野寺
 ☎ 0855-66-0043

酒仙蔵人・五郎之会 酒米の田植え

期日 5月8日(土) 予定
 場所 温泉津町西田地区の水田
 棚田とヨズクハデ景観の保全に燃える同会の田植えが行なわれます。飛び入り参加も大歓迎！
 [問] 若林酒造(有)
 ☎ 0855-65-2007

大田市小学校連合運動会

期日 5月15日(土)
 場所 大田小学校校庭
 市内21校から、約1,000人の児童が参加!!



クリーン三瓶

期日 5月16日(日)
 場所 三瓶山西の原
 三瓶山西の原一帯を中心とした清掃活動です。国立公園三瓶山をみんなできれいにしよう！
 [問] 大田市役所環境衛生課
 ☎ 0854-82-1600

カキツバタまつり

期日 5月23日(日)
 時間 10:00～15:00
 場所 三瓶山北の原(姫逃池)
 料金 不要(野点は茶菓代200円)
 姫逃池に咲き誇るカキツバタを鑑賞し、野点などを楽しみます。
 [問] 島根県立三瓶自然館サヒメル
 ☎ 0854-86-0500
<http://nature-sanbe.jp/sahimel/>



おおだ情報BOX

三瓶山西の原火入れ（通称「野焼き」）

期日 3月13日(土)
場所 三瓶山西の原
三瓶山の防火対策と草原の維持再生を目的に毎年この時期に行われています。大草原に立ち上がる炎は見る者を圧倒し必見です。
※見学自由
[問] 産業振興部農畜産振興担当
☎ 0854-82-1600 (内線251)



春のやきもの祭り

期日 4月17日(土)・18日(日)
場所 温泉津やきもの里
国内最大級の登り窯の窯出し(18日)や即売が行われます。陶器のほかにも、市内の特産品が盛りだくさん！
[問] 温泉津 やきもの里 やきもの館
☎ 0855-65-4139
<http://www.yunotsu.org/>

創作音楽劇『琴の鳴る浜』

期日 3月14日(日)
場所 大田市民会館大ホール
開演 14時(開場13時30分)
入場料 全席自由
前売り: 一般 1,000円
高校生以下 500円
※当日券は200円UP
ふるさとの伝説を音楽と劇で舞台化！
総て地元で創る舞台です。
[問] 大田市民会館
☎ 0854-82-0938

春の彼岸市「中日つあん」

期日 3月21日(日)・22日(月)
場所 大田市駅通り
大田市民会館駐車場など
昔は、農民の日用品の交換・農具市・牛馬市などが主でしたが、現在では、植木市なども出店し、約2kmにわたって300近い露店が並びます。
[問] 大田商工会議所
☎ 0854-82-0765

早春の男三瓶山を歩く

期日 4月25日(日) 予定
場所 男三瓶山
定員 50人 ※要予約(1ヶ月前～)
春を迎えた男三瓶山頂を目指す登山。ギフチョウやヤマエンゴサクに会えるかも。男三瓶山山頂で行われる山開きにあわせて、早春の自然林に咲く植物や生き物を観察しながらゆっくりと山頂をめざします。
[問] 島根県立三瓶自然館サヒメル
☎ 0854-86-0500
<http://nature-sanbe.jp/sahimel/>



11月5日(木)、6日(金)「交流から始まる新たな感動—都市と田舎の融合—」をテーマに全国水源の里シンポジウムが大田市民会館で開催されました。

全国各地から、過疎地域に共通する課題に取り組む、住民、研究者、自治体関係者約650人が集い、農地や森林の保全や新たな地域運営の担い手になりうる交流人口、定住人口に増大の実践を議論し、全国にアピールしました。

基調講演では、国際日本文化研究センターの安田喜憲教授が「石見銀山は世界に開かれていた」と題して講演。稲作を中心に栄えてきた文明が『豊かな水源の里』を守り続けてきた歴史を紹介し、21世紀に入り地球温暖化防止に向けた低炭素社会実現の時代を迎え、「最も大切なことは、森の文明によって育まれた日本人が、未来に向けて一層の認識を深めなければならない」と語られました。

事例報告では、山本光則さん((財)育てる会関西事務局長)さんが「大田市の山村留学の取り組み」と題し、全国から集まった学園生が、自然豊かな三瓶での日々の生活の中に目標を見出すなど、充実し

た生活についての報告がありました。このほか様々な課題に取り組む竹下美智子さん(川本町・エゴマ栽培農家)、西嶋二郎さん(美郷町・農事組合法人ひじきドリーム代表)、石橋由岐子さん(邑南町・農家民宿「やまぼうし」経営)が、日頃の活動を紹介されました。

続くパネルディスカッションでは、「時代に対応した新たな過疎対策～水源の里こそ日本のふるさと」をテーマに、経済産業省の岸本吉生さんがコーディネーター、総務省の椎川忍さん、国際連合大学ゼロエミッションフォーラムの竹林征雄さん、NPO法人「結まーるプラス」理事長かわべまゆみさんの3名がパネラーとして参加。「過疎地域の活性化には人間力と地域資源の活用が大切」など、活発な意見が交わされました。

最後に、過疎対策を国全体の課題として捉え、財源を国に強く求めていくことなどを大会アピールとして決議しました。



6日(金)事例報告された4人のみなさんのもとを現地視察写真は、農家民泊「やまぼうし」(邑南町)

【問い合わせ】大田市役所地域政策課
☎0854-82-1600 内線211



高台からの眺め

稲用城跡は、長久町稲用の西端にあります。標高69mの独立した山で、頂上には二つの高台があります。東側の高台からは稲用の田台やそれを囲む山々、はるかには三瓶山を望むことができます。(左写真)

鎌倉時代の武将伊東祐時の二男祐盛は、稲用郷三百町歩（現在の稲用、延里、土江、東用田、西用田）を所領とし、姓を「稲用」と改め、この城山を居城として数代80有余年の間、統括したとされています。後に九州の日向国（現在の宮崎県）に移った後も代々稲用を姓とし、その子孫は日南市に残るといわれています。また、江戸時代には浜田藩の出城として松平一族が居城したとも伝えられています。

稲用に城があったことはあまり知られていませんが、広く知ってもらい、次代に伝えていきたいと地元の皆さんが石碑の建設や階段の整備などに取り組まれています。

◆ 稲用城跡への行き方 ◆

国道9号「枯木橋」交差点（押しボタン信号）から約1.2km。市道長久大坪線に入り踏切を通過し右折、土江神社の角を左折し、南進。「稲用城山遺跡」の石碑が目印です。その右手から急な坂と階段を約200段。ゆっくり登ると約10分で山頂です。JR大田市駅から車で約10分。

詳しくは、

長久まちづくりセンター
(☎0854-82-5571)まで



稲用城跡

表紙

あの頃 ～仁万駅周辺(昭和39年)～

表紙と右の写真は、旧仁摩町が町制施行10周年を迎えた昭和39年に仁万駅から仁万大橋に向かって撮影されたものです。

仁万・宅野・大国の農業協同組合の合併(昭和38年)や、全町有線放送事業の開始(昭和38年)、仁万・宅野・馬路の漁業協同組合の合併(昭和39年)など、町の姿がどんどん変化していった頃です。



現在



表紙の後方には、仁万中学校（後に仁摩中学校）の旧校舎が見られますが、昭和43年に新築の校舎へ移転しました。当時の男子中学生は下駄を履いていたようです。

現在の写真（左）には、旧校舎のあった位置より少し上に、建築中の新しい屋体の姿も見えます。(竣工式：平成22年2月25日)

昔の面影を残しつつ、仁摩町の風景は少しずつ変わっていきます。

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行 / 大田市役所総務部地域政策課 TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail:o-tiiki@iwamigin.jp http://www.city.ohda.lg.jp/

“おおた”の定住サイト「どがどが」 http://www.teiju-ohda.jp/

どがどが 検索